

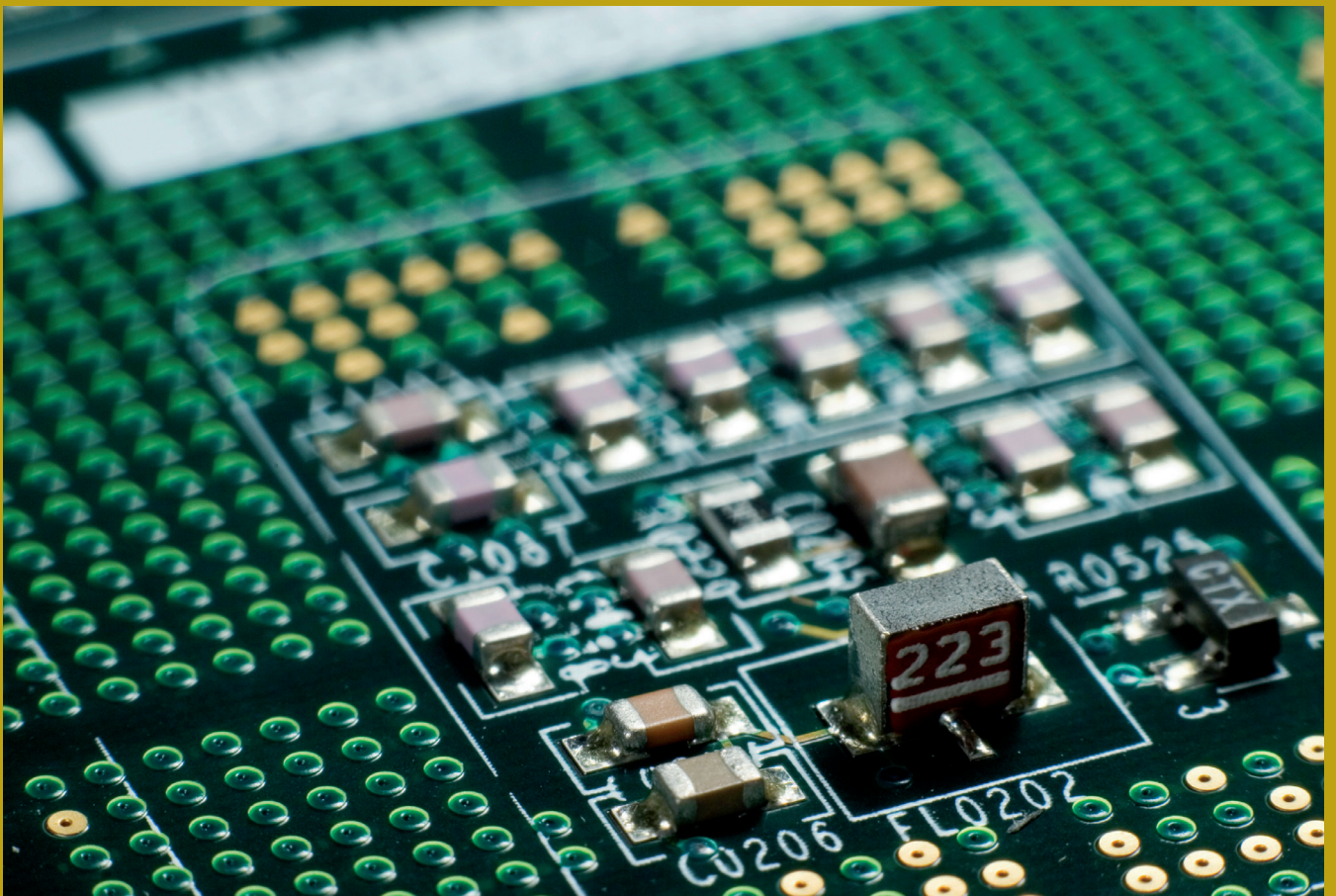
## 第8章 中間財貿易

著者	ユベール エスカット, 猪俣 哲史
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
シリーズタイトル	その他
雑誌名	東アジアの貿易構造と国際価値連鎖 : モノの貿易 から「価値」の貿易へ
ページ	75-88
発行年	2011
章番号	第8章
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00049227">http://hdl.handle.net/2344/00049227</a>

## 第 8 章

### 中間財貿易

- ・ 中間財は世界の財貿易の大半を占める。
- ・ 欧州とアジアが中間財貿易の拡大を牽引する。アジアのサプライチェーンは、域内の大規模な中間財輸入によって支えられている。
- ・ 日本と米国、中国の間の「三極貿易」では、米国と日本が中国に中間財を輸出し、一方で中国からは多くの最終財を輸入する。
- ・ アジア諸国が交易する中間財はその複雑性を増している。



## 第1節 中間財貿易—オフショアリングの指標

中間財貿易は、産業内貿易やオフショアリングの発展、多国籍企業ネットワークの拡大などを背景に増加を続けている。<sup>(1)</sup> 中間財貿易量を計測するための一般的な方法は、国連の広域経済カテゴリー（broad economic categories: BEC）分類を用いることである。BECでは貿易財を最終用途ごとに仕分け、消費財、資本財、中間財に分類している。

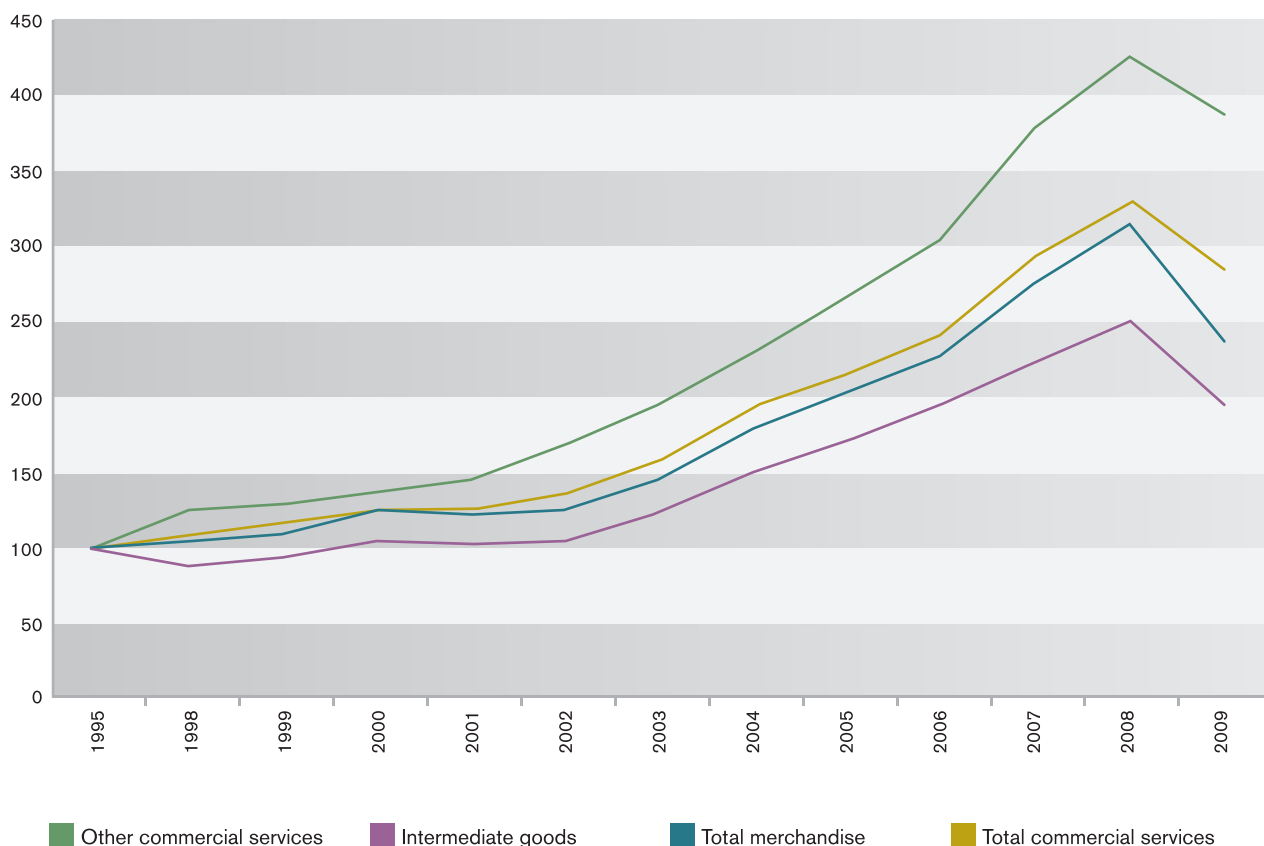
一方、「中間サービス」（intermediate services）貿易の定義と計測ははるかに複雑であり、そのためのデータも限られている。<sup>(2)</sup> 現在のところ、最終消費のためのサービスと中間消費のためのサービスを正確に区別できる公式の貿易分類は存在しない。国際的に業務委託される中間サービスのフローを計測する一つの方法は、「その

他の商業サービス」貿易というきわめて統合化されたカテゴリーを用いることである。なぜなら、このカテゴリーにはオフショアリングの対象になりうる多くのビジネス関連サービスが含まれるためである（たとえば、第2章第3節の「ビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）と情報技術サービス」に関する記述を参照のこと）。

図1は中間財貿易と財・商業サービス貿易全体の時系列変化を示す。過去20年間に中間財とサービスの貿易が大幅に増加したことはチャートから明白である。これは、製造業とビジネス関連サービス業におけるグローバル化の進展とオフショアリングの普及（「付加価値連鎖の分業化」<sup>(3)</sup>）を背景とした、いわゆる「仕事の貿易」（trade in tasks）の拡大発展を示している。

図1

財・商業サービスの貿易の世界的トレンド、1995～2009年（1995年＝100）



（注）データは、1995年を100として正規化されている。

（出所）国連商品貿易データベース、WTO 概算。

## 第2節 国際貿易を促進する中間財

2009年の世界の中間財輸出は、消費財と資本財の合計額を超え（図2）、財輸出（燃料を除く）の51%を占めた。世界の中間財輸出は、1995年から2009年の間に約2兆7740億米ドルから5兆3730億米ドルへとほぼ倍増し（図3）、年平均成長率は4.8%だった。

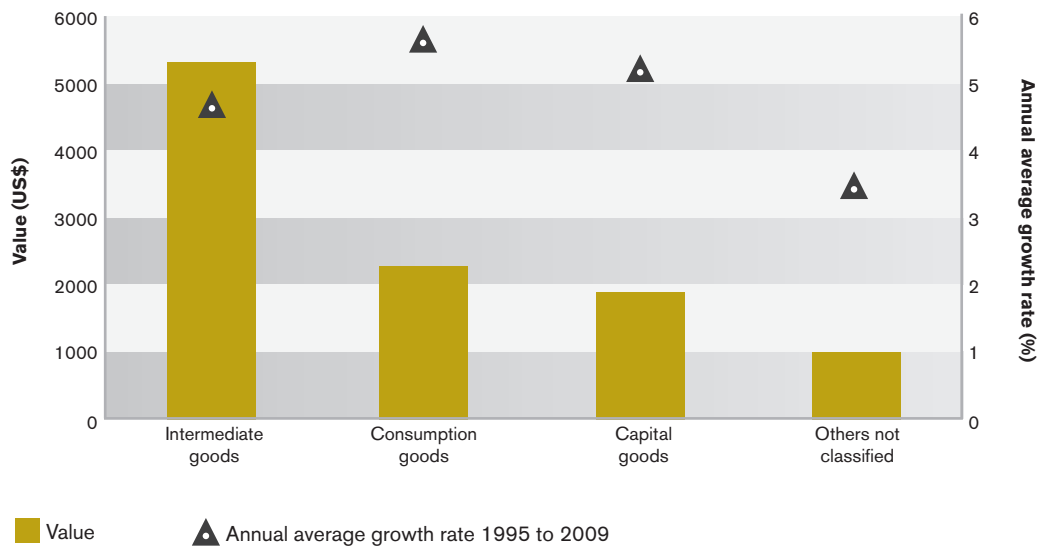
世界の中間財貿易の一つの特徴は、過去15年間、その貿易全体に占める割合が非常に安定していることである。

1995年から2009年の間、三つの財カテゴリー、すなわち資本財、消費財、中間財それぞれの輸出量はほぼ同じスピードで増加した。中間財は最終財の生産に使われるため、最終財（消費財または資本財）のフローには、さまざまな中間財の生産過程で生み出される「価値」が反映されている。したがって、中間財貿易における三つのカテゴリーのシェアと成長率が安定しているのである。

国際生産ネットワークを分析する際の問題点として、企業内貿易や加工貿易に関する統計の欠如、また BEC

図2

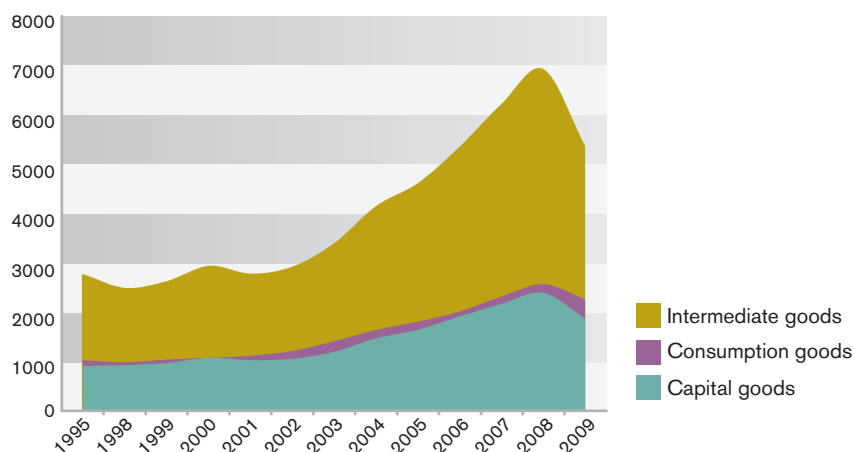
最終用途別の財（燃料を除く）の輸出、1995～2009年（単位：10億米ドル、%）



（出所）国連商品貿易データベース、WTO 概算。

図3

最終用途別の財（燃料を除く）の輸出、1995～2009年（単位：10億米ドル）



（出所）国連商品貿易データベース、WTO 概算。

の一部の分類では中間財と最終財の区別がつきにくいことが挙げられる。<sup>(4)</sup>

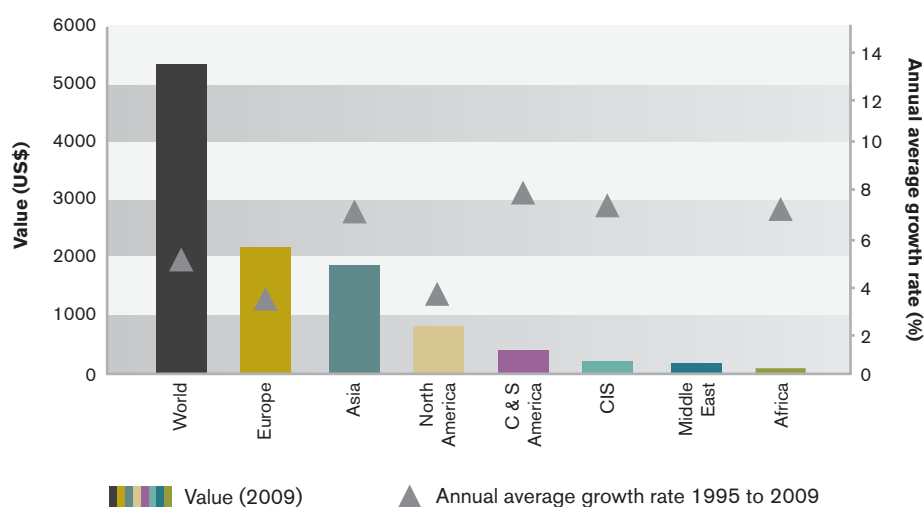
### 第3節 中間財貿易の拡大を牽引する欧州とアジア

2009年における中間財の生産と輸出は、主として欧州、アジア、北米に集中していた。欧州や北米とは異なり、

アジアの中間財輸出は、1995年から2009年の間に於いて世界平均（4.8％）よりもはるかに急速に拡大した（7.2％）。また、いくつかの発展途上地域（中南米、アフリカ）と独立国家共同体（Commonwealth of Independent States: CIS）諸国からの中間財の輸出も、西欧諸国よりはるかに急速に拡大している（図4）。中間財の貿易量は、生産分業による地域の経済統合レベルの指標になる。取引額としては、開発途上国は欧米諸国に比べて依

図4

地域別の中間財輸出、1995～2009年（単位：10億米ドル、％）

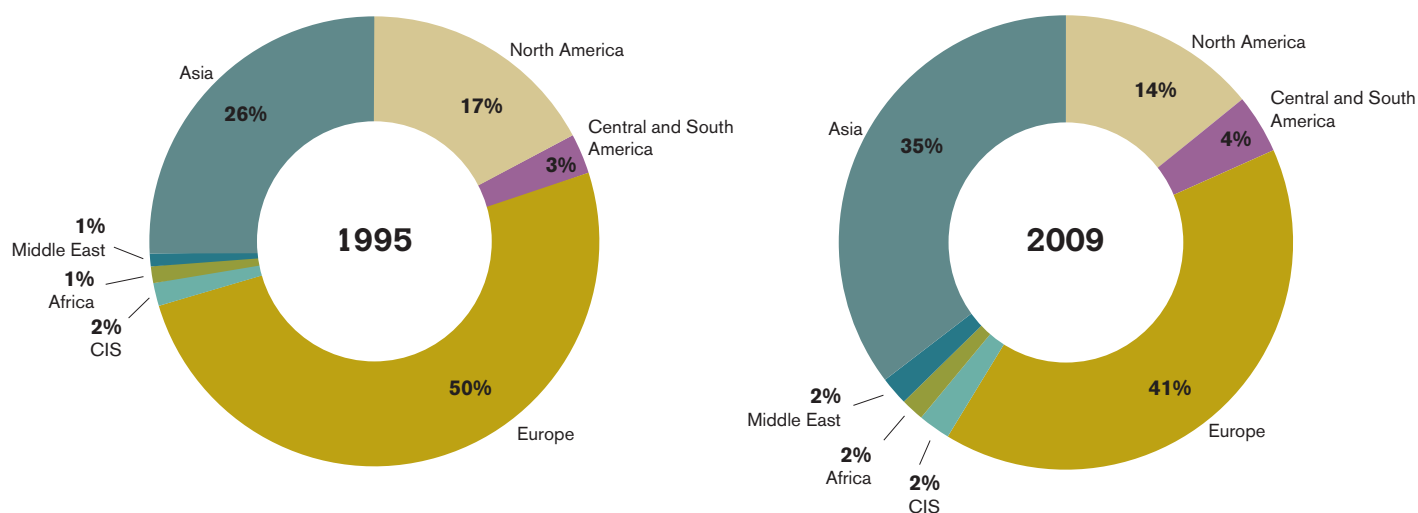


（注） 1995年の中東のデータは入手できず。

（出所） 国連商品貿易データベース、WTO 概算。

図5

中間財輸出における地域シェア、1995、2009年（％）



（出所） 国連商品貿易データベース、WTO 概算。

然として低い水準にある。しかし、開発途上国にとって国際貿易は生産分業を通じてサプライチェーンに参加する機会をもたらすため、今後も持続的なペースで経済の国際化を進めるものと期待される。

世界の貿易における北米と欧州の中間財輸出シェアは、1995年から2009年の間に著しく低下した（図5）。一方、アジアのシェアは10%近く上昇し、2009年には、世界の中間財輸出の35%に達した。北米と欧州の国々は、中間財貿易をサービス分野に向けてさらに多様化する傾向がある。一方、アジア域内で進む生産工程の細分化によ

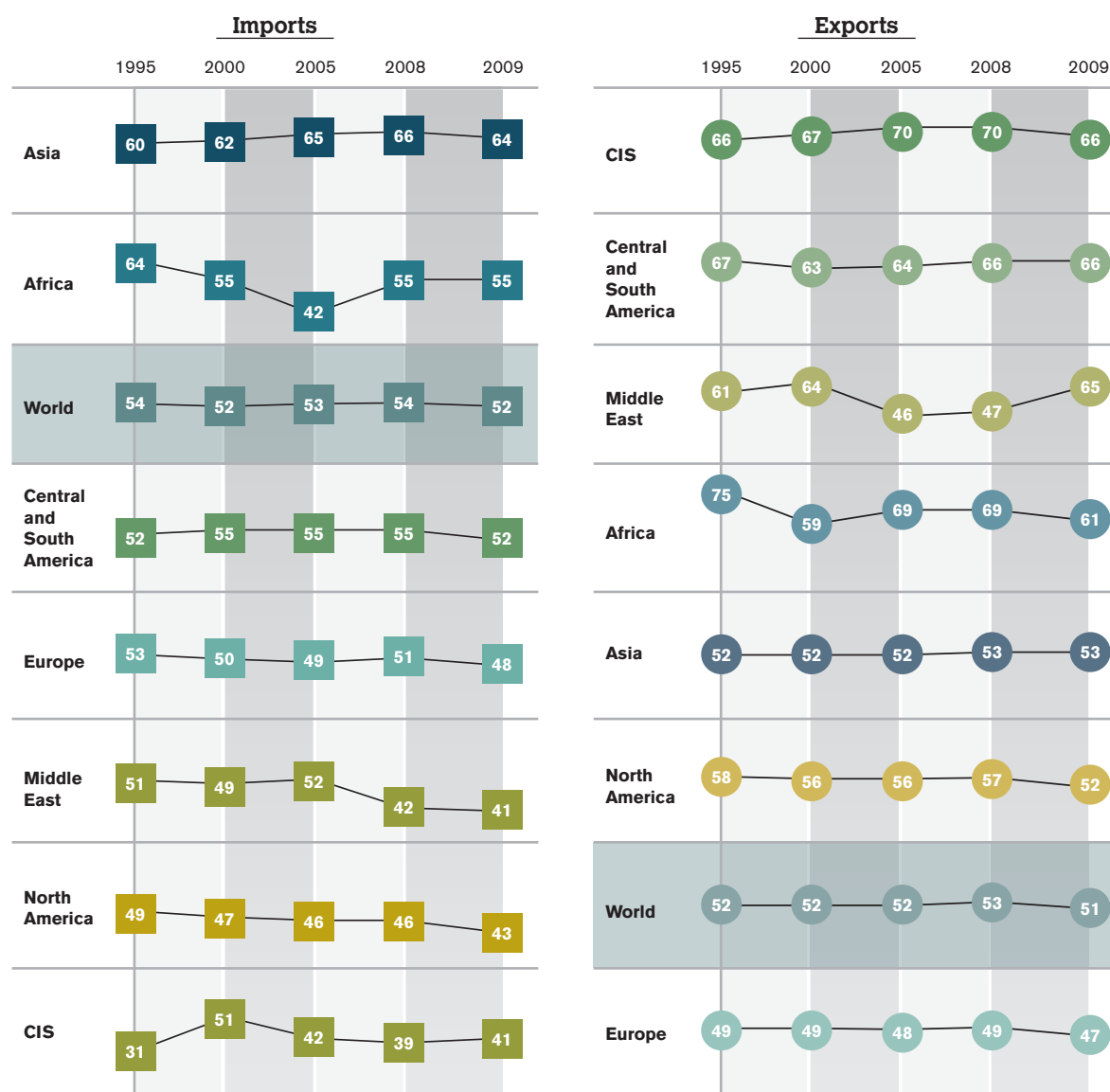
り、同地域の中間財生産・貿易への関与はますます深まるものと思われる。

図6に示すように、中間財はアジアの輸入全体の60%以上を占める。アジアは国際生産分業において、特に工業製品の加工と組立てで中心的な役割を演じている。ただし、アジアでは輸入された中間財が輸出向け最終財の生産に使われる傾向があるため、結果的に中間財の輸出シェアは約50%にとどまっている。

図7は地域内および地域間の中間財輸入フローの規模を示す。2008年では欧州の域内輸入が2兆500億米ドル

図6

輸出入総額（燃料を除く）における中間財のシェア、1995～2009年（%）

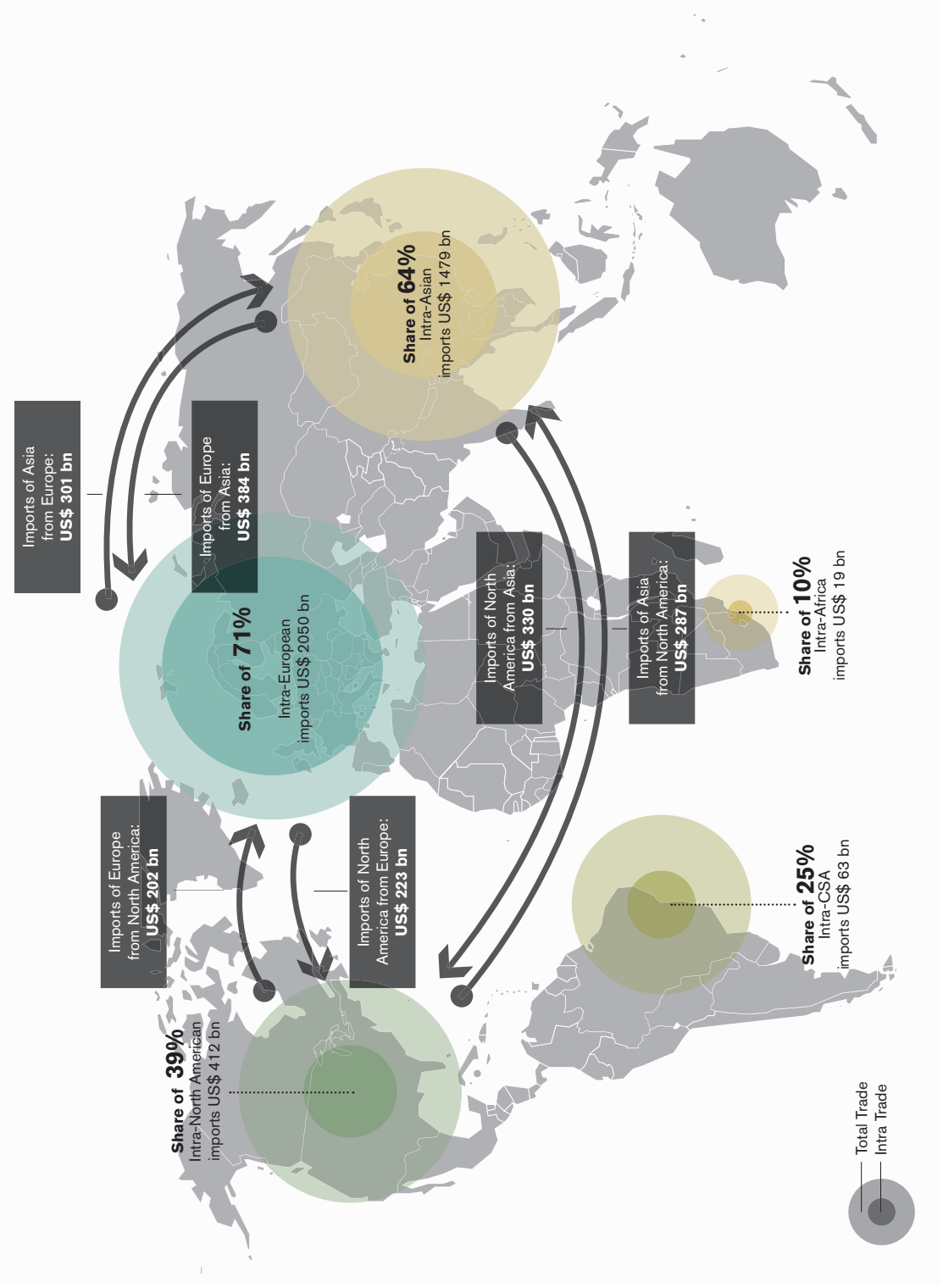


（出所）国連商品貿易データベース、WTO 概算。



図 7

地域内および主要地域間の中間財輸入、2008年（単位：10億米ドル）



(出所) 国連商品貿易データベース、WTO 概算。

で最大規模であった。域内貿易は中間財の輸入総額の半分近くを占めた。アジアの域内輸入は、欧州に次ぐ1兆4790億米ドルだった。域内貿易はアジアの中間財輸入の64%以上を占めており、これはアジアに生産分業が集中していることを明確に示している。

アジアは域内生産ネットワークを発展させただけでなく、欧米経済と連結するサプライチェーンも拡大してきた。したがって、基本的にアジアは主要な貿易相手国である北米と欧州諸国とともに、貿易フローの発地（輸出者）または着地（輸入者）のいずれかとして、地域間の中間財貿易に深く関与している。たとえば、中間財の最も大規模な地域間輸入フローは、欧州とアジア（3840億米ドル）、北米とアジア（3300億米ドル）である。アジアは北米向け中間財の主要なサプライヤーである。その結果、北米の域内中間財輸入（4120億米ドル）のシェアは、同地域の中間財の輸入全体の39%であり、その重要性はアジアや欧州に比べて低かった。

中南米、アフリカ、オーストラリア、オセアニアの中

間財の輸入水準は低い。とりわけ域内貿易はいずれも中間財の輸入全体の30%未満であった。これは、これらの地域はまだ国際生産ネットワークに参加して間もない、という事実を反映している。

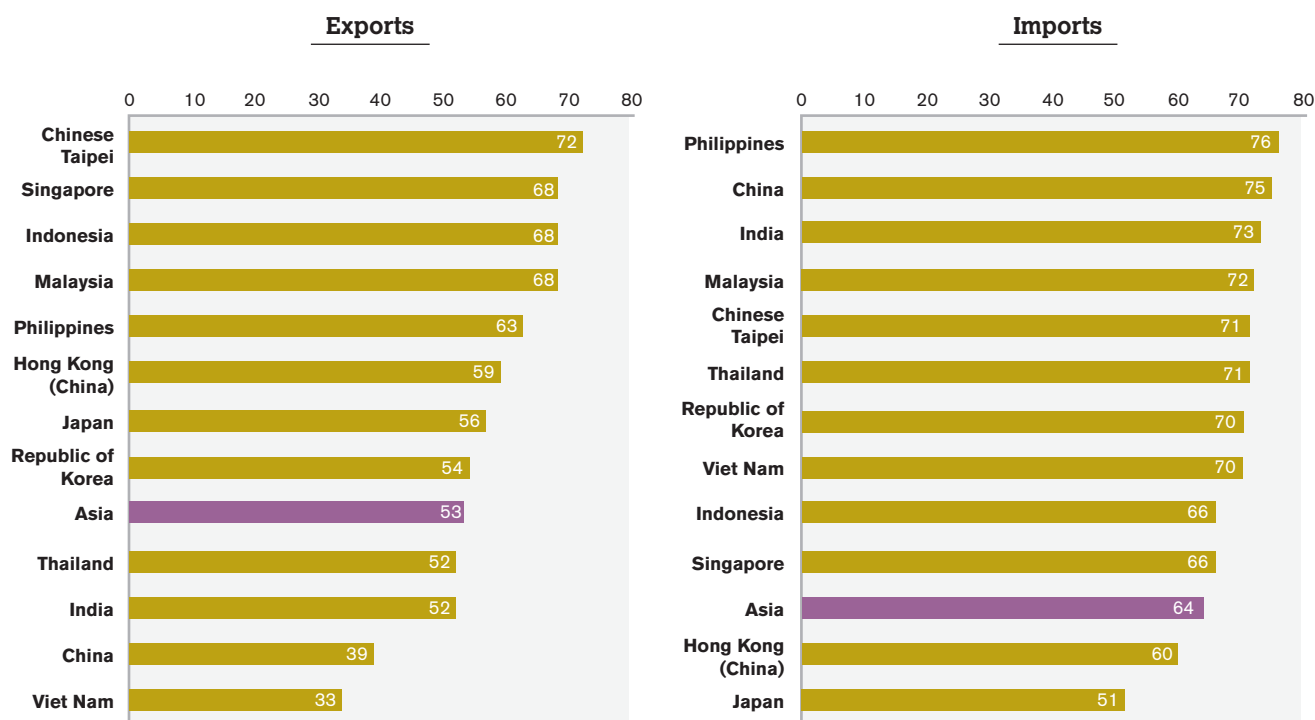
#### 第4節 アジアの中間財貿易—輸出量を上回る輸入量

2009年においてアジアの中間財貿易は輸入総額が輸出総額を上回った。これは、アジア諸国の国際生産ネットワークへの深い関与を示している。ことに、日本や韓国などの先進国は中間財輸出の方が大きいので、全体としての輸入超過はおもに開発途上国の影響によるものであることが分かる。実際、中国は域内で主に組立工程を担っているが、2009年には中国の中間財輸入がアジア全体の33%以上を占めた。

結果として、貿易全体における中間財のシェアに関して、中国の順位は輸出と輸入が逆転している（図8）。

図8

アジアの主要貿易国の輸出入総額（燃料を除く）における中間財のシェア、2009年または直近のデータ（%）



（出所）国連商品貿易データベース、WTO 概算。



インドやベトナムも中間財の輸出シェアより輸入シェアのほうが顕著に大きく、日本と台湾はその逆であった。台湾の中間財の輸出シェアはアジアの主要な貿易国の中で最も大きかった。<sup>(5)</sup>

図9はアジアの主要な貿易国の中間財貿易の水準と年平均成長率を示す。輸出の上位5ヶ国・地域（中国、日本、韓国、香港、シンガポール）のうち、中国が最も大きく成長した。中国の平均成長率17%はアジアの平均を大きく上回っている。この時期、これらの国・地域のうち、ベトナムの中間財輸出だけが急増した（23%）。

中国はアジアの中だけでなく、世界でも最大の中間財輸入国である。これは、中国経済の国際化とともに、アジア諸国からの輸入財を使った加工貿易の進展を反映している。中国、インド、ベトナムは、過去15年間で最も活発に中間財を輸入してきた国である。これらの国々の平均成長率は12～16%であり、地域の平均である7%をはるかに超えている。

## 第5節 増加を続けるアジア域内の中間財貿易

図10は、1995年から2009年の間に、アジアの主要な貿易国の大半で中間財の域内輸入シェアが大幅に増加したことを示している。香港の2009年の輸入シェアは83%を超えた。インド（2009年の輸出入シェアはいずれも40%）を除くほぼすべての国・地域で、中間財貿易の半分以上がアジア域内で行なわれた。中国の輸入にとって、域内市場は依然として重要である。しかし、1995年には70%だった輸出は、2009年には51%へと低下した。これは世界市場への中国の統合が進んだこと（中国市場のグローバルな多様化が最終財と中間財の両方で進展してきた）と、中国の貿易量が力強く拡大したことと関係する。中国の貿易黒字はおおむね加工貿易活動と関連している<sup>(6)</sup>（グローバル生産については第2章を参照）。その結果、先進国との加工貿易の収支は黒字である一方で、東アジアの貿易相手国に対しては赤字である。また、インドでは、中間財輸出全体に占めるアジア域内シェアはきわめて安定していた（1995年は41%、2009年は40%）が、輸入シェアは増大した。

## 第6節 中国、日本、米国の二国間中間財貿易

1995年と2009年の両年において、米国の中国向け輸出の大半は中間財だったが、輸入は主に最終財だった。このことは、米国向け製品の生産国としての中国の役割を浮き彫りにしている（図11）。また、米国の対中国輸入における最終財は、消費財から資本財にシフトしたことがうかがえる。それは日本についても顕著である。

同時に、米国から中国への資本財の輸出は、金額では年平均8%で増加したものの、シェアは著しく減少した（この現象は、米国の多国籍企業によるオフショアリングの増加にも起因する）。1995年から2009年の日中の二国間貿易は、これとよく似た状況である。日米間の貿易構造は、日本の対米輸入についてはきわめて安定していたが、資本財においては輸出シェアは1995年から2009年の間に低下した。

## 第7節 複雑性を増す中間財と貿易の集中化

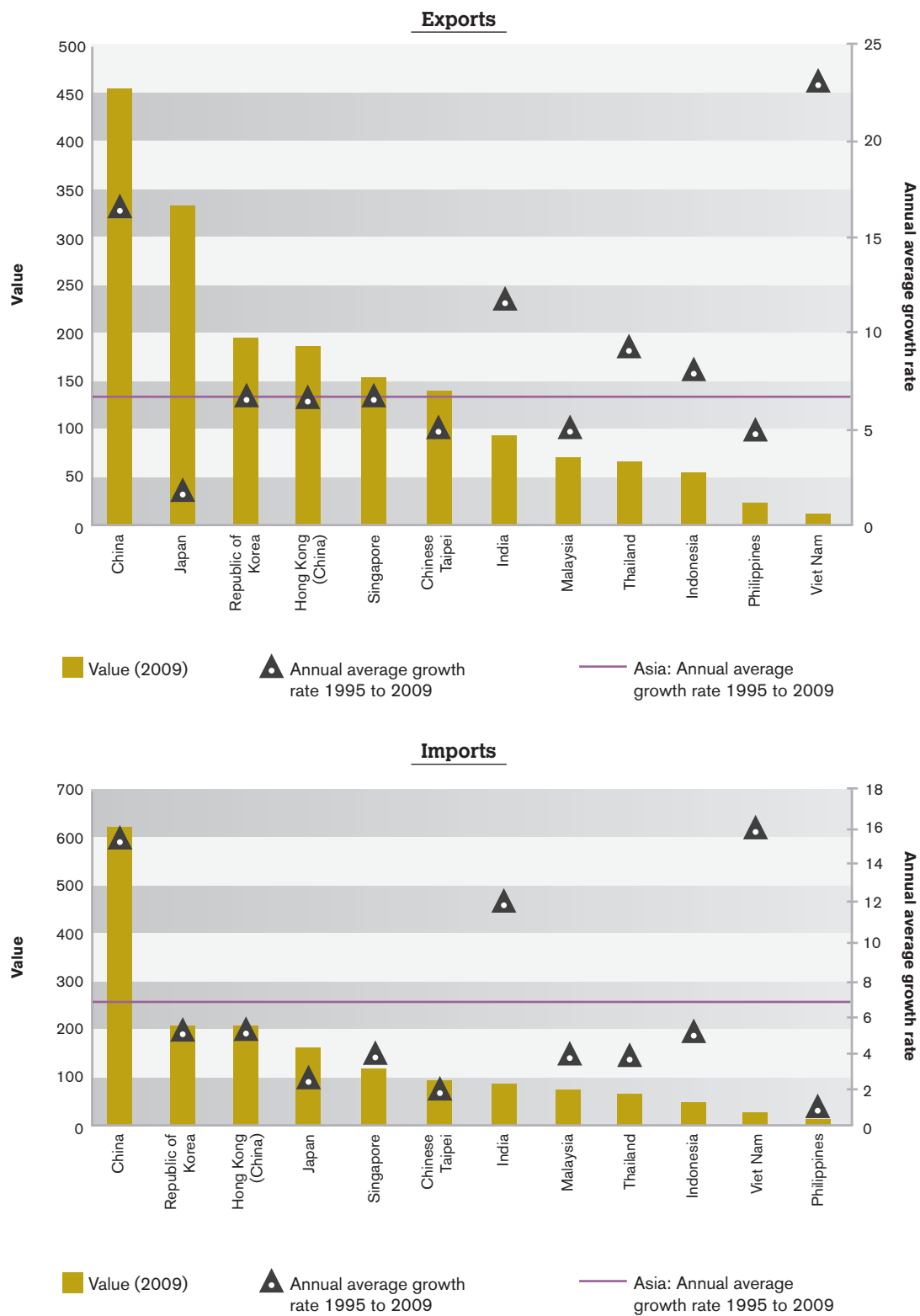
図12に示すように、1996年以降、アジアの主要な貿易国間で比較的複雑な構造を有する中間財<sup>(7)</sup>の輸出シェアが大幅に増加し、特に2009年にはそのシェアが急増した。過去数年の輸入シェアは輸出よりも安定していた。ただし、日本は明らかな例外であり、輸入は継続的に増大し、2009年には46%に達した。実際、日本の集積回路関連製品への高度な特化が、複雑な構造を持つ中間財の貿易を牽引する形となった（図13）。

図13は2009年に中国と日本が交易した中間財の上位10品目である。最終用途カテゴリー約2800品目の上位10品目は、それぞれ中国の輸出の26%と輸入の39%を占めた。

日本の上位10品目も中間財の貿易全体で大きな割合（輸出の23%、輸入の26%）を占めた。モノリシック集積回路は日本で最も多く取引された中間財であり、中国が最も多く輸入した製品でもあった。一般的に、情報技術・電子部門は、アジアで最も多く交易される中間財の大部分を占めることがよく知られている。

図9

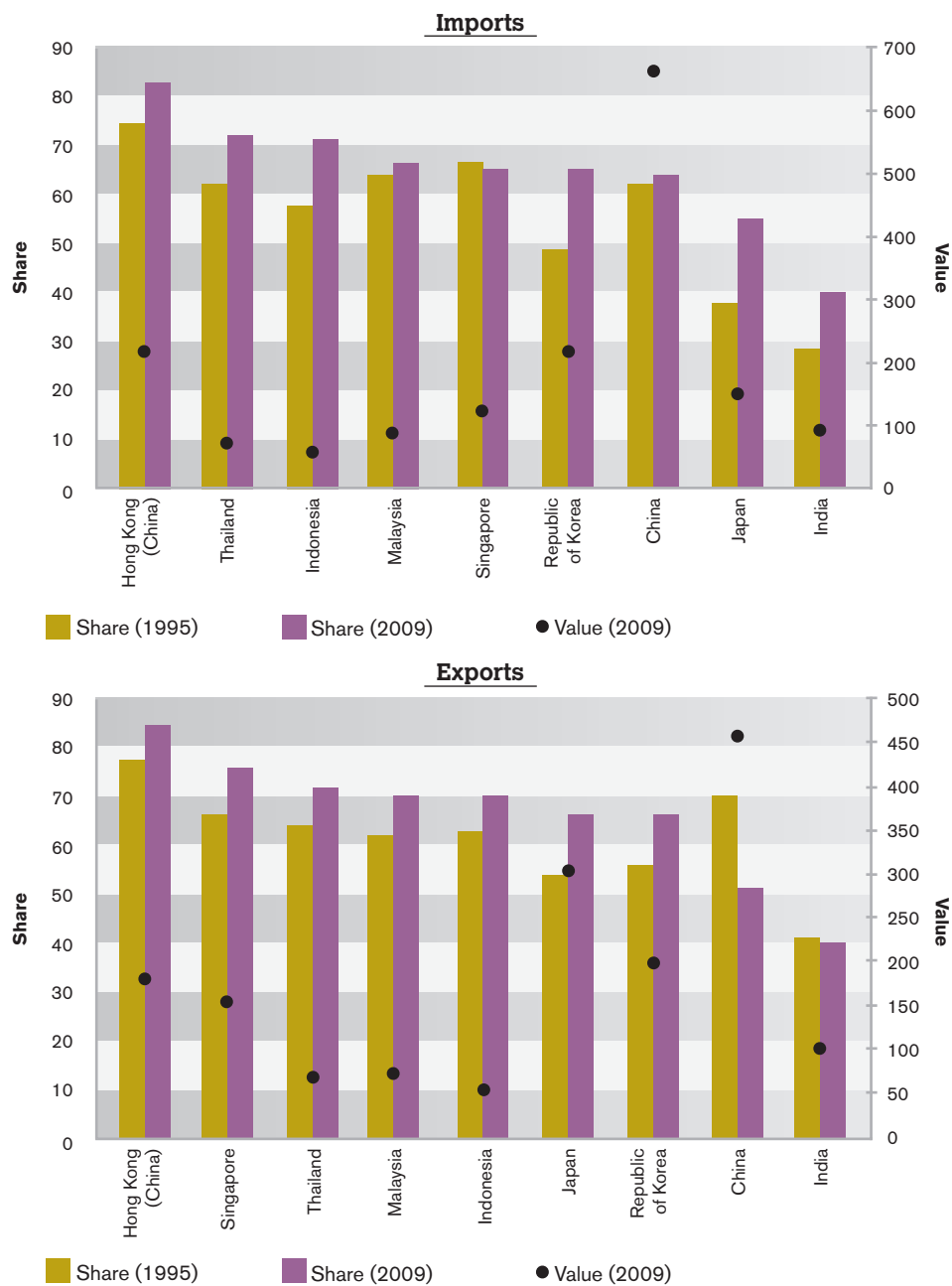
アジアの主要貿易国の中間財輸出入、1995～2009年（単位：10億米ドル、%）



(出所) 国連商品貿易データベース、WTO 概算。

図10

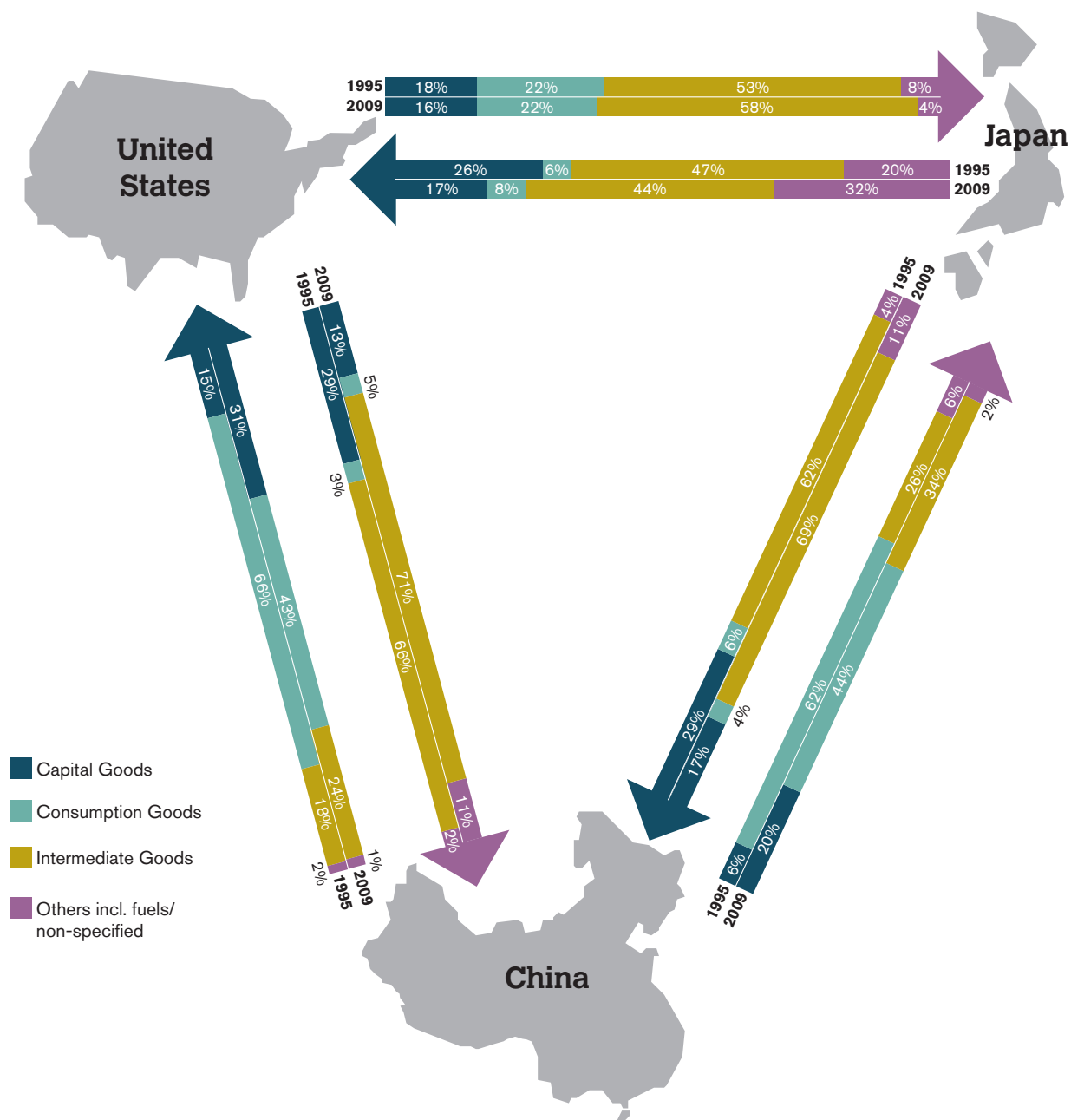
アジアの輸出入総額に占める域内中間財貿易のシェア及び金額、1995、2009年（単位：10億米ドル、%）



（出所）国連商品貿易データベース、WTO 概算。

図11

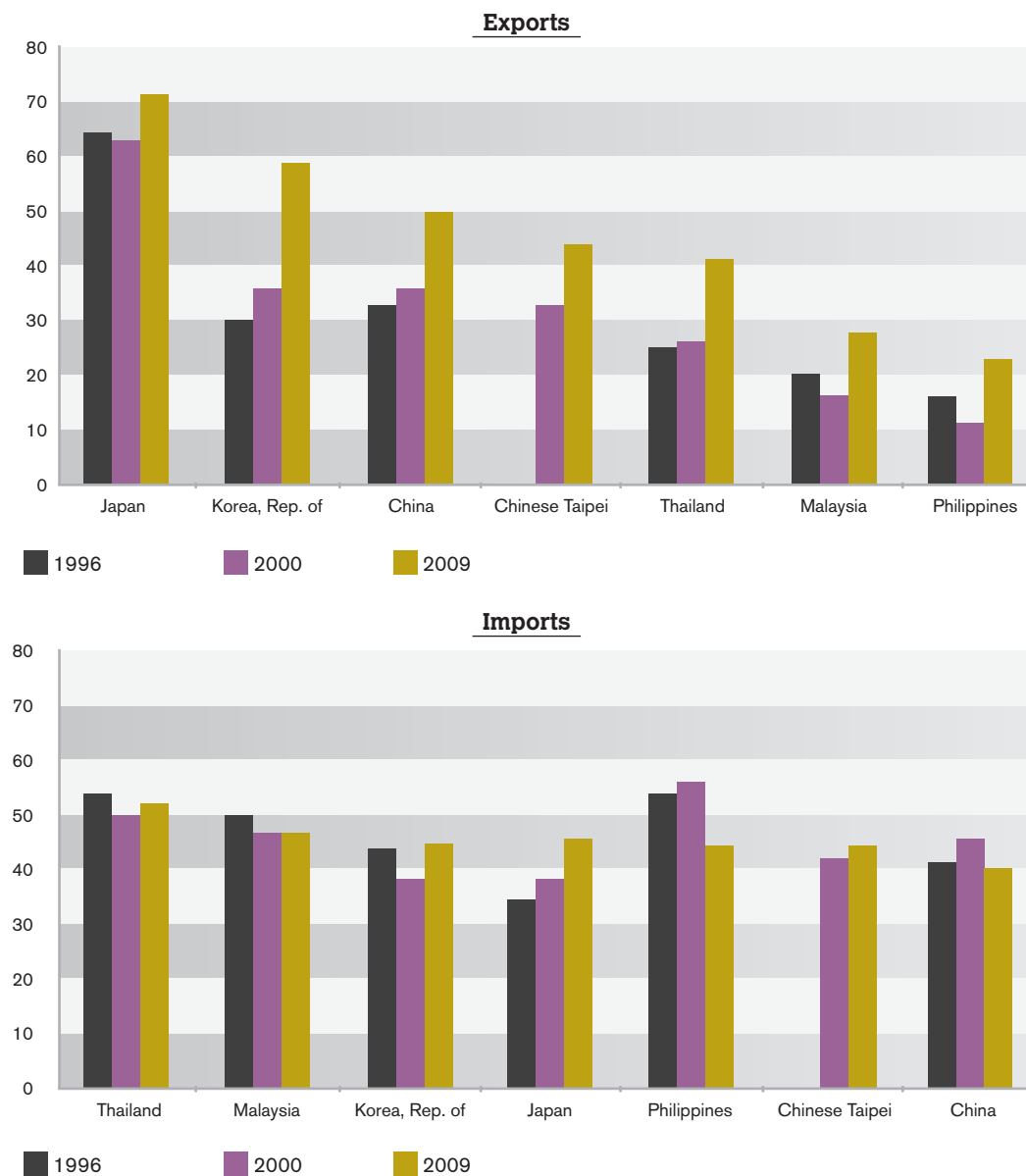
日米中の最終用途別二国間貿易フロー、1995、2009年（％）



（出所）国連商品貿易データベース。

図12

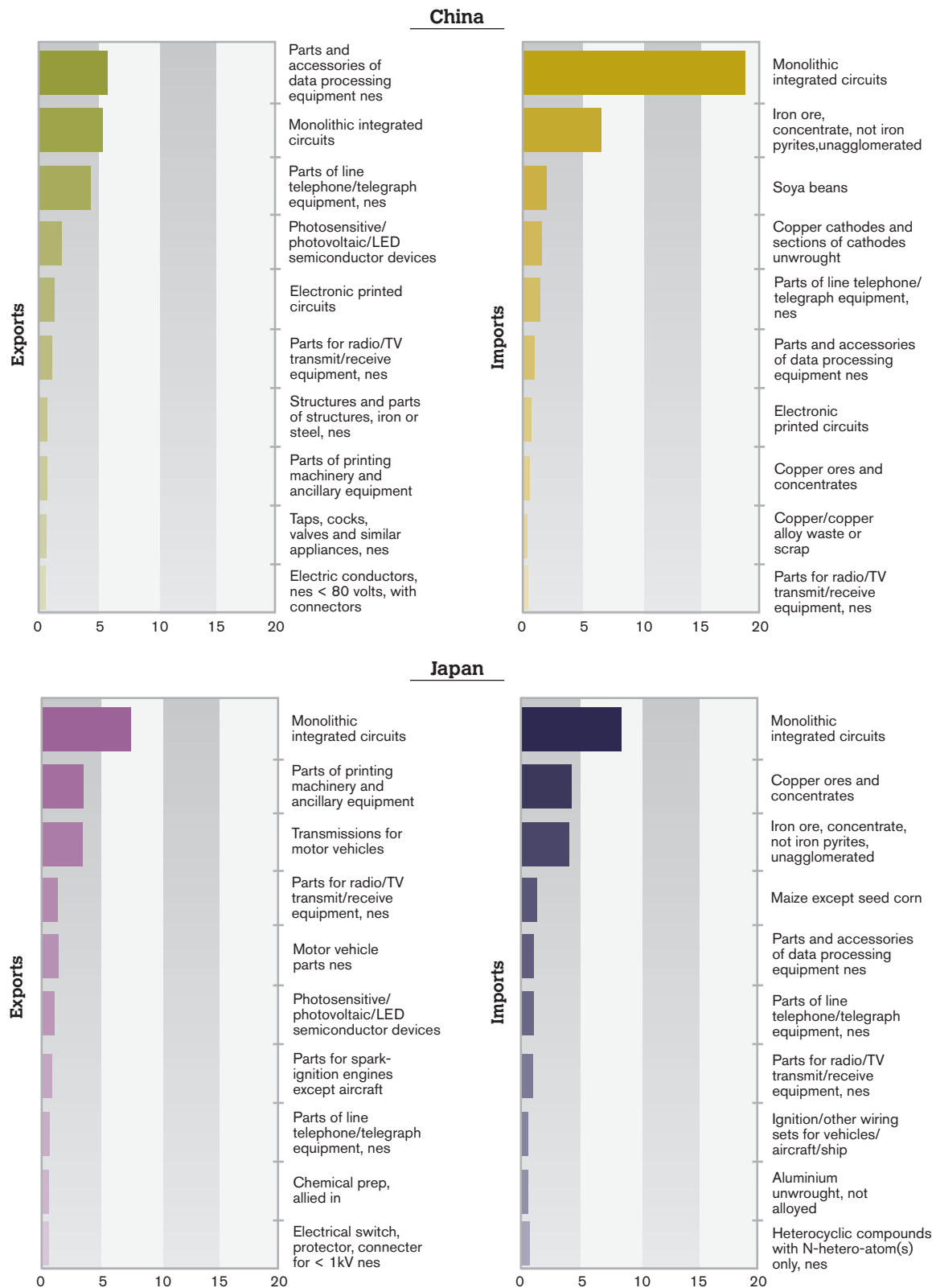
中間財貿易に占める複雑な構造の中間財のシェア、1996、2000、2009年（％）



（出所）国連商品貿易データベース。

図13

輸出入総額に占める中間財シェア上位10品目、2009年（％）



（出所）国連商品貿易データベース。



【注】

- (1) 本章で適用する中間財の定義は、部品、付属品（BECコード42および53）および工業素材、加工中間財（BECコード111、121、21、22）を含む。「燃料・潤滑油」カテゴリー（BECコード3）は除外した。
- (2) Miroudot et al. (2009) を参照。
- (3) WTO (2008, p. 37) を参照。
- (4) Sturgeon and Gereffi (2009) を参照。
- (5) 「アジアの主要な貿易国」と称される12ヶ国・地域（中国、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナム）は、2009年のアジアの中間財貿易の約95%を占めた。
- (6) Xing (2011) を参照。
- (7) 「製品の複雑性」の定義については、Abdon et al. (2010) を参照。